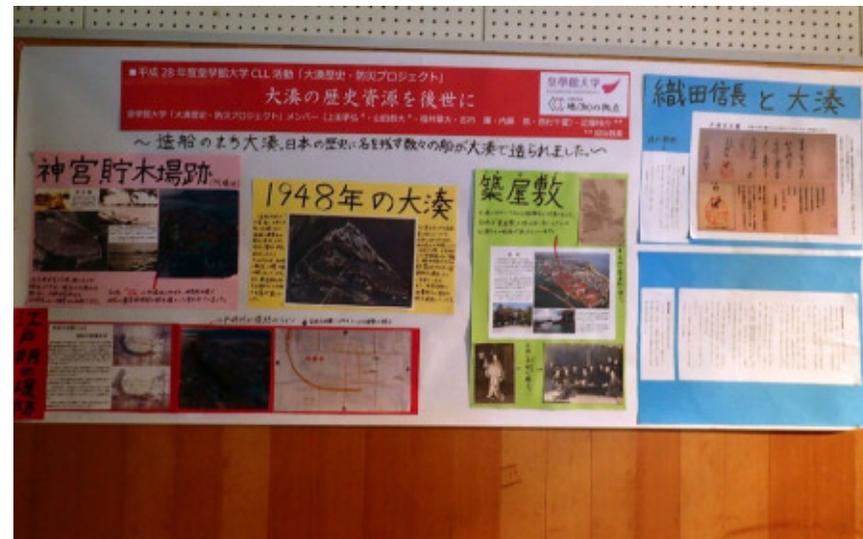


大湊歴史・防災プロジェクト

実施主体：
大湊町未来づくり委員会





本活動は伊勢市大湊地区の歴史文化や自然を再発見するとともに、これらの地域資源を防災資源として活用することを目的として行われました。本活動では、大湊町振興館を拠点としながら皇学館大学、三重大学などの学生が合同で集まり、大湊町振興会会長をはじめとした地域の方からのヒアリングや街歩きを通して大湊を知り、地域防災イベントで地域の方々とワークショップを行いました。

実際の活動では、徒歩による防災マップの作成を行いました。そこではドローンを使用し、上空からの大湊の地形や景観を観察したり、避難可能な場所、危険個所、施設などを探し、実際に見つけたものや場所、各自で気がついたことなどをマップに書き込んでいきました。また、防災を考える上では、その「地域の歴史を知る」必要があります。そのため、何度も大湊に足を運び、調査を行いました。この活動では地域住民に防災意識を高めることはもちろん、大湊の良さを知ってもらい大湊に対する誇りをもってもらおうよう、活動しました。大湊は古くから造船業として栄えたところであると同時に、中世から津波被害が甚大で、大湊の人々は津波被害とともに生きてきました。その点から歴史分野においては、大湊町振興会が保有している古文書から津波被害がどの程度及んだか、破損箇所や死者数から江戸時代の津波被害の様子、織田信長と大湊との関係について調査しました。織田信長が大湊に宛てた文書の現代語訳を行い、当時の戦国時代の様子に迫りました。また、実際に大湊を歩き史跡を回り、写真や古文書から当時の様子を調べました。

平成28年11月27日(日)には、大湊小学校で開催された、大湊町避難訓練のイベントに参加し、防災分野の視点からは「町民による町民のための大湊町防災MAP」の作成ブースを設け、歴史分野の視点からは写真や古文書などを活用し大湊の歴史についてのポスター展示を行いました。

今回の活動を通して、その土地を訪れて研究することの意義を知り、その大切さを感じました。私たちの研究でより多くの大湊の方に大湊の良さを知ってもらえるよう、これからも活動をしていきたいと考えています。

(指導教員:近藤 玲介)